

電力料金等の高騰に関する医療機関調査概要

【調査の目的と調査方法、回答率】

電力料金や物価高騰の影響を把握し、政府・自治体への要望を行うため調査を行いました。

調査対象は、FAX 登録のある内科・歯科会員医療機関 701 件。調査方法は、調査用紙を FAX で送付し、返信してもらい集計。2023 年 3 月 22 日（水）～4 月 5 日（水）を調査期間としました。

回答数は合計 136 件で、回答率は 19.4%でした。

【調査結果概要】

電気料金について昨年同時期と比較して「上がった」と回答した医療機関は、129 件（94.9%）でした。「上がった」と回答した 129 件に増加割合を尋ねたところ、「10%～30%未満」が 62 件（48.1%）と最も多く、次いで「30%～50%未満」が 17 件（13.2%）でした。「70%以上」との回答も 11 件（8.5%）ありました。

ガス、灯油料金については、未使用の医療機関も多く存在することから 2 割程度が無回答であったものの、昨年同時期比で「上がった」との回答は、ガス 77 件（56.6%）、灯油 94 件（69.1%）でした。そのうち、どれくらい増加したかについては、ガス、灯油とも約 4 割の医療機関が「10%～30%未満」との回答で、中には 50%以上増加との回答もありました。

病院・有床診療所（13 件）に尋ねた食材料費については、昨年同時期と比較して「上がった」と回答したのは 10 件（76.9%）でした。

物価高騰への対策方法については、「照明の間引き等」86 件（42.6%）、「空調温度の調整」70 件（34.7%）と、回答の多くを占める結果となりました。

調査の結果、医療機関は保険診療という側面から、物価が上昇しても価格転嫁できず、経営を圧迫している状況がうかがえます。患者の快適さと感染対策のための換気のバランスに苦慮し、節電もままならないとの声も聞きます。行政に対しては、既存の支援への感謝と共にその支援の継続や新たな支援策を望む声が多く見受けられました。

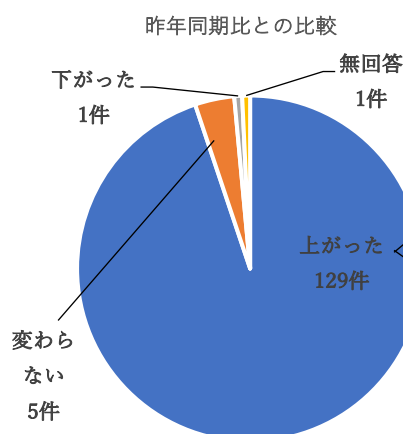
電力料金等の高騰に関する医療機関緊急調査結果

1. 基本事項

発送件数	701件
回答医療機関数	136件
回答率	19.4%

医療機関形態	件数	割合
病院	4件	2.9%
有床診療所	9件	6.6%
無床診療所	93件	68.4%
歯科診療所	30件	22.1%
合計	136件	100.0%

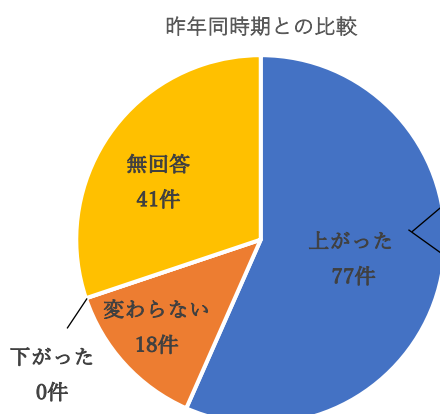
2. 電気料金について



「上がった」と回答 129 件 (94.9%) の増加割合

増加割合	件数	割合
10%未満	13件	10.1%
10～30%未満	62件	48.1%
30～50%未満	17件	13.2%
50～70%未満	7件	5.4%
70%以上	11件	8.5%
無回答	19件	14.7%
合計	129件	100.0%

3. (1) ガス料金について

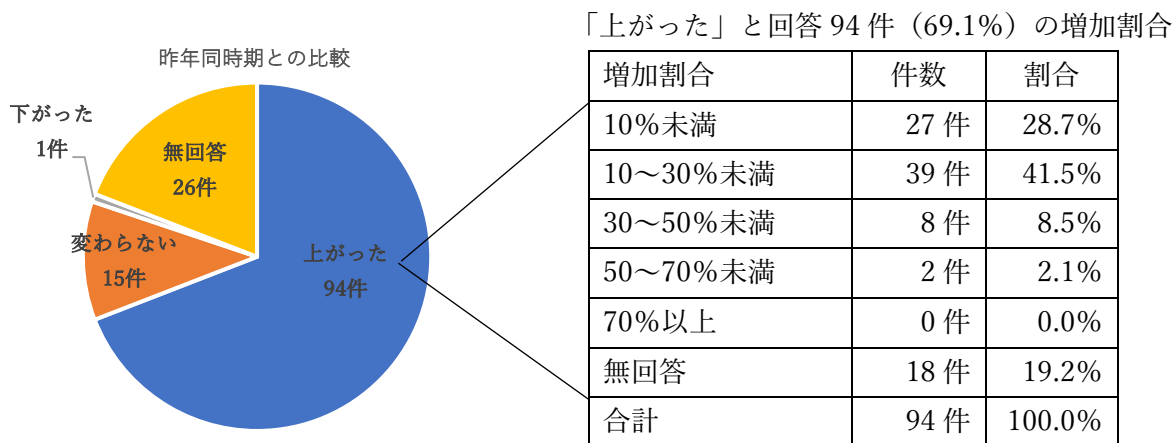


「上がった」と回答 77 件 (56.6%) の増加割合

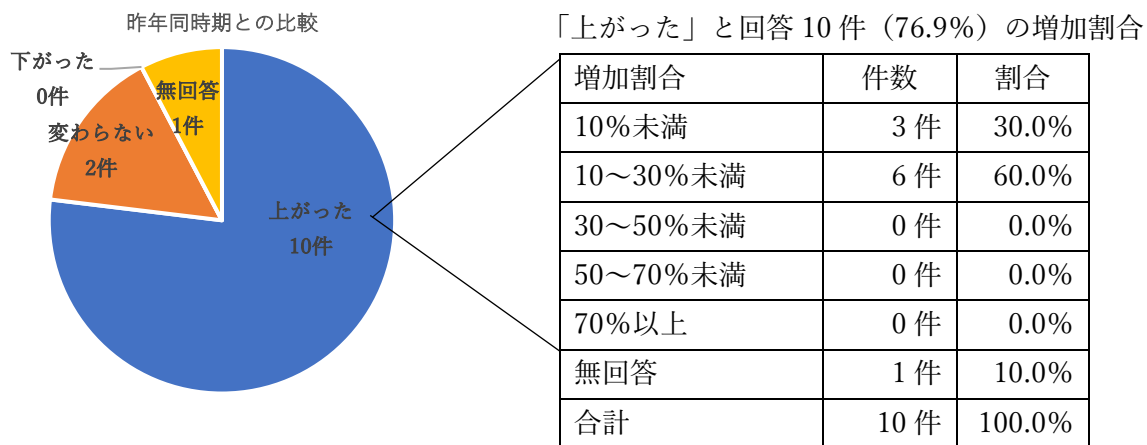
増加割合	件数	割合
10%未満	21件	27.3%
10～30%未満	30件	39.0%
30～50%未満	5件	6.5%
50～70%未満	3件	3.9%
70%以上	0件	0.0%
無回答	18件	23.4%
合計	77件	100.1%

※四捨五入しているため合計が 100% にならない

3. (2) 灯油料金について

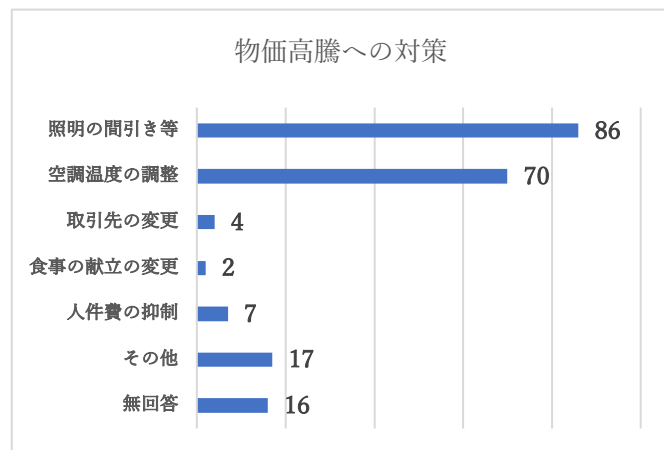


4. 食材料費について (病院・有床診療所 13 件のみ回答)



5. 物価高騰への対策 (複数回答)

対策方法	件数	割合
照明の間引き等	86 件	42.6%
空調温度の調整	70 件	34.7%
取引先の変更	4 件	2.0%
食事の献立の変更	2 件	1.0%
人件費の抑制	7 件	3.5%
その他	17 件	8.4%
無回答	16 件	7.9%
合計	202 件	100.1%



※四捨五入しているため合計が 100%にならない

その他 ○LED への交換 ○こまめなフィルタ交換 ○外灯を早く消す ○診療時間短縮
○分娩料値上げ ○これ以上対策不可能 など

6. 物価高騰の現状や困りごと（抜粋）

<input type="radio"/> 物価高騰の影響が大きく、来年度予算が非常に厳しいものになっている。
<input type="radio"/> 物の値段が上がりすぎて、ヒーターや水道管などの修理まで予算が回らず困っている。
<input type="radio"/> 物価や人件費が上がっても保険診療なので価格に転嫁できない。
<input type="radio"/> 常に節電を心掛けているため更なる努力は微々たるもの。料金上昇がそのまま響く。
<input type="radio"/> 必要経費なので節約にも限界がある。
<input type="radio"/> 物価高騰はやむを得ないが、この状況が続くと経営にも影響を及ぼす。
<input type="radio"/> 原材料高騰のためと思われる薬剤の製造中止が目立っている。
<input type="radio"/> 医療機器使用時も電力を使用するため、料金値上げは痛手である。
<input type="radio"/> エアコン、照明等患者さんの快適さを考えるとどう節約すべきか悩む。
<input type="radio"/> 感染対策のための物品購入も増え、物価高騰でその分も含め経費増。
<input type="radio"/> IT 関連にますます経費がかさみ、そのほか医療機器、消耗品等ほぼ全ての物の価格上昇によって、経営を続けて行けるかどうかギリギリである。
<input type="radio"/> 看護師不足のため人件費の抑制はできない。分娩料を上げざるを得ない。
<input type="radio"/> 歯科材料が値上がりしたが保険点数が上がらないので経営が圧迫される。
<input type="radio"/> コロナ以来、医療機関で働くのはリスクが高いと人手不足の状態が続いている。歯科医院の場合、人手は入れられる予約の患者数に直結する。

7. 行政等への要望（抜粋）

<input type="radio"/> 助成金、補助金等給付型のお金がほしい。
<input type="radio"/> 税金引き下げ、助成金交付。
<input type="radio"/> 助成金拡充、申請の簡素化。
<input type="radio"/> 診療で衣服を脱いでもらうこともあり室温を保たなければならぬため、電気料金の補助をしてほしい。
<input type="radio"/> 寒冷地に配慮してほしい。
<input type="radio"/> 暖冷房の必要な業種、事業所へは課税にならない方法で助成してほしい。
<input type="radio"/> 物価上昇抑制策の実施。
<input type="radio"/> 補助金を一度のみではなく継続して欲しい。
<input type="radio"/> 県の医療機関物価高騰対策支援はありがたい。継続した取り組みをお願いしたい。
<input type="radio"/> 県の支援金を今年度も願う。
<input type="radio"/> エネルギーの安定供給対策。
<input type="radio"/> これだけ光熱費や物価が上がっているのに薬剤費が10%も値下がりするのはおかしい。適切な薬剤費を考慮してもらわないと使える薬剤が限定される。
<input type="radio"/> 再生可能エネルギーはダムを利用した水力や地熱など小型で地域密着型発電も考慮すべき。
<input type="radio"/> 診療報酬を上げてもらわなければ経営を続けていけなくなる。
<input type="radio"/> 他の業界は値上げしているため、医療機関へも診療報酬を含め何らかの値上げを考慮願う。
<input type="radio"/> 診療報酬を10~20%上げてほしい。